

2019 年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課				
①	1. ICT の活用し、業務の効率化をさらに進める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	概ね ICT 化が進んでおり、業務の効率化が図られている。今年度はシステム変更に着手しており次年度、次々年度に向けて準備を進めている段階である。
②	2. ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実に言い仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	他の課、学年団との情報共有が一部出来ていない部分があった。こちらから情報発信していても相手側から情報を得られないことがあり。修正が必要となる場合があった。
進路指導課				
①	生徒、保護者の進路希望を把握し、正確な進学情報を共有できる環境を整える。説明会等に積極的に参加し、各学年・コースに応じた最新の進学・入試情報を得て、教職員と共有できるようにする。	満足度指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C	学校評価アンケート「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者に対しても十分に提供されている」の集計結果より、「当てはまる」および「どちらかと言えば当てはまる」が全校平均で 64%であった。校内 Web 連絡システムを活用し、教職員に正確な進路情報を迅速に伝えるとともに、Classi を用いて保護者に直接情報を発信していきたい。
②	生徒、保護者の進路希望が実現するように努力する。難関国立大学、難関私立大学、医学部医学科、地元国公立大学の合格者数を増やす。	成果指標 A：3 項目以上が増加 B：2 項目が増加 C：1 項目が増加 D：4 項目が減少	A	3 月 26 日現在、難関国立 10 大学 5 名→14 名、難関私立 13 大学 130 名→158 名、医学部医学科 6 名→3 名、地元国公立大学 68 名→82 名である。来年度から地元の金沢大学の入試科目が刷新される。早期に対策を講じていきたい。
③	生徒、保護者の進路希望で最も多い国公立大学の合格者数が増えるように努力する。現役での国公立大学合格者 150 名以上を目標とする。	成果指標 A：150 名以上 B：100 名以上 C：50 名以上 D：50 名未満	B	3 月 26 日現在、現役生の国公立大学合格者数は 147 名である。共通テストで高得点を取るための指導に加えて、早期に記述力の向上が見込める仕組みづくりをしていきたい。後期日程試験まで受験するような最後まであきらめない生徒へのサポートを継続していく。
生徒指導課				
①	あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促す。教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果による自己評価とは別に、自発的に挨拶がいまだ難しい現状もあり、個々がさらにあいさつを自然とできる運動を進めて行くことが必要。「自分から挨拶ができていますか。」 できている 58.0%、概ねできている 34.6% やや不十分 6.6%、不十分 0.9%
②	通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果ではよい結果だが、自転車や公共交通機関でのマナーについての苦情の連絡が度々あった。常にマナーを意識する指導が必要。「通学マナーを守ることができていますか。」 できている 79.0%、概ねできている 19.8% やや不十分 1.2%、不十分 0.0%

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務課				
①	学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学式 ＊PTA 総会 ＊保護者懇談会 ＊入試説明会 ＊推薦入試・一次入試 ＊専願合格者説明会 ＊卒業式 ＊入学説明会	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	各行事の準備を早めに取り掛かり、概ね良好に実施できた。準備と撤収に人員の要する事例については、多くの職員の協力が得られ円滑に実施できた。
特活課				
①	生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。また、2年目となる応援委員の活動をより活発化して、全校応援等でまとまりのある応援ができるように活動していきたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	生徒会執行部を中心に星稜祭クラステナントについて、新たなルールの策定・周知活動をした。食品テナントを3年生中心に変更し、実施クラスを限定することで安全管理・衛生管理の向上につながった。野球部の大活躍により応援する機会が多く、その準備へ応援に多くの生徒が携わり、決勝戦に至るまでに生徒の応援活動もより活発となっていった。
②	星稜祭食品テナントにおいて各クラスが衛生管理をしっかりと行うように指導し、食中毒予防に努める。職員および高校2、3年生に講習会の受講を義務付けることによって意識向上を図りたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	各クラスでテナント内容を決定する前の時期に、職員および高校2、3年生に対して食中毒予防講習会を実施することができた。食中毒予防の意識づけとして大きな効果があった。今年度も安全に食品テナントを実施できた。
③	各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	今年度5月1日時点での部活動加入率は71.8%で、昨年度の66.9%より向上し、目標としていた70%を超える結果となった。新入部員募集の効果的なPRを行うと同時に、途中退部を減少させる取り組みを次年度に継続させたい。
④	生徒自身が主体的に健康な生活を送れるような実践力を育てる。自己の健康課題について認識させるため、身体計測後の長期休暇前に個別の保健指導を実施し、視力・聴力および歯科検診において昨年度以上の病院受診率を目指す。	成果指標 A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：20%未満	B	各検診の受診率は検尿100%、内科検診100%、胸部X線100%、心臓検診100%、歯科40%、視力・聴力は39%であった。昨年度に比べ、歯科の受診率は7%上昇したが、視力・聴力は8%低下した。よって、全体の受診勧告者に対する受診率は44%となった。来年度は、保健だよりによりクラスごとの受診率を掲載し、受診意識に繋げていく。
広報課				
①	世界で活躍する個性豊かな星稜生に“成長する”ことをイメージした「GROW! SEIRYO」のスローガンを、「GROW!ツリー」というシンボルマークを用いて多方面で表現・発信していく。中高一貫校としての再スタートやICT教育、土曜GSP等に代表される本校の教育改革の認知度を高め、文武に優れた名門校としてのブランド力をより一層上げていきたい。 ※「GROW!ツリー」使用例 テレビCM、新聞、雑誌、学校案内、学校要覧、各種リーフレット、星稜Times等	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	本校初となる3種類のテレビCM放送及びYouTubeへの公式動画掲載をスタートさせ、博報堂を介してテレビ局をはじめとする地元マスコミ業界との関係を構築できた。見学会では初のシールラリーに挑戦し中学生からの評価は上々であった。また、Webサイトに掲載するスライドを質・量共に大幅に高めたことで、活動状況の充実度をより訴求できた。目に見える成果としては、甲子園出場時等のTwitter上の本校Webサイトに対する多数の書込みが極めて高評価なものであったことと、富山県からの受験者数が過去最高となる56名を記録したことである。
《次年度における校務改善に向けて》 今年度で30年間続いた「センター試験」が終了したと同時に、戦後最大級の大学入試改革を迎えることとなる。「大学入学共通テスト」の導入については、行政レベルでも大きな混乱があったものの、中高大の接続をより意識した、魅力ある教育内容を提供できる学校運営を心掛けていく点では、揺らぐものは何もない。本校の教育の根底にある生徒への生活指導はもちろん、新しくスタートさせたGSPの実施方法や講座内容の更なる充実を検討し、新たな試みとなるWeb出願や推薦入試の導入を通じて、利便性を高めつつ、本校への入学志願度がより高く優れた生徒を的確に選別できることで、入学前からも高い満足度を得られるよう、生徒募集及び入試広報の在り方を向上させていきたい。				